

メモリーグラフを用いた京都の町並み変化に関する地域学習教材に関する研究

高橋彰(大阪大学), 北本朝展(人文学オープンデータ共同利用センター)



1. はじめに

- ・市街地の画一的な開発により、伝統的な町並みや景観は危機にある
- ・景観破壊の問題は、(防災や福祉に比べ) 地域住民に理解されにくい
- ・地域の景観形成の現状や変化を地域住民に分かりやすく伝える方法が必要

→古写真のデジタル・アーカイブを用いた地域学習を提案



図1. 研究活動のフレームワーク

2. 京都の鉄道・バス写真データベース

【共同研究】
矢野桂司 河角直美 (立命館大学)
佐藤弘隆 (愛知大学)

京都の鉄道・バス写真データベース^{文1)}
公開日 : 2017年2月
所蔵元 : 立命館大学 アートリサーチセンター (以下、ARC)
資料数 : 約9,200点



図2. 京都の鉄道・バス写真アーカイブの検索結果画面

過去写真, 資料情報, 地図, 現在写真の4つの情報を並列することで, 場所(地域)の変化を視覚的に理解しやすい閲覧システムを実現している。

文1) 京都の鉄道・バス写真データベース https://www.dh-jac.net/db1/photodb/search_shiden.php

3. メモリーグラフ

メモリーグラフ(メモグラ)は同一構図撮影を支援するカメラアプリ。今昔写真、ピフォーアフター写真、定点観測写真、聖地巡礼写真、位置証明写真など、自然物や人工物の不変性と変化を可視化するフィールドワークに活用できる^{文2)}。



図3. メモグラの基本的な機能^{文2)}

文2) メモリーグラフ HP <https://mp.ex.nii.ac.jp/>



図4. メモグラのシステム概念図(公開プロジェクト)

プロジェクトモードはネットワークを介して複数のユーザ(不特定多数)でデータを共有することが可能な公開プロジェクト、複数の端末(特定の集団)でデータ共有が可能なクラウドプロジェクト、端末内でデータが完結するローカルプロジェクトの3段階が実装されており、使用する地域に合わせて公開の範囲をコントロールすることができる。2023年9月から、Web上でプロジェクトを登録・修正できるメモグラ・マネージャー、メモグラ・ビューアを試験的に公開している。

4. フィールドワークからまちづくりへ

活動初期は景観の変化を体験、記録するまち歩きを実施しながら、その運営方法を確立。2021年以降は、より特定地域のまちづくりに焦点をあて、フィールドワークを行いつつまちづくりに関するコミュニケーションを引き出す活動にシフト。

表1. 研究活動年表

2017-2018	「京都の鉄道・バス写真データベース」の撮影地を探すイベント 展示会・トークイベント・聞き取りなど、同時に様々なイベントを開催
2019	「近代建築 WEEK2019 スマホで三条まちなみの変遷発見ラリー」初開催
2020	「スマホで鴨川運河」開催 京都市電北野線の写真資料の現地同定作業調査
2021	地域まちづくり団体への調査 「京の三条まちづくり協議会」、「鴨川運河会議」、「祇園新橋まちづくり協議会」
2022	まちづくり活動者への調査(祇園新橋、産寧坂)
2023	地域学習企画マニュアル(仮)の作成

メモグラの地域学習(まちづくり)における4つの意義

- 1. 景観のアーカイブの意義**
 - ・メモグラを地域で活用すれば、無数の過去写真を定点とした定点観測アーカイブが複数のユーザーによって生成される
 - ・さらに、この機能を拡張して考えれば、現在の地域で大切にすべき(保全すべき)視点場からの眺めを事前に登録し、その眺めの定点観測を実施することで眺めの観測と観察から景観の課題や対策を検討することが可能になると考えられる
- 2. 現状把握と景観分析ツールとしての意義**
 - ・メモグラを使うことで、景観の「良かった過去」だけでなく、まちづくり活動の成果として「良くなった今」にも気づくことができたので、そのような経過を知るツールとしても使える
 - ・古いものが良いように言われがちだが、古写真と今の風景を比べて、アスファルト舗装が石畳になるなど、質が良くなる工事が行われていると気づいた
- 3. 地域の良さを伝える普及・啓発ツールの意義**
 - ・長く住んでいる人は、地域の歴史や成り立ちなどを知っているので、新しく地域に移り住んだり、商売を始める人に、地域の良さをわかってもらうツールにしたい
- 4. コミュニケーションツールとしての意義の意義**
 - ・スマホの扱いは 若者が得意 ⇔ 高齢者は苦手
 - ・地域の知識は 若者は知らない ⇔ 高齢者はよく知っている



5. まとめ

地域社会の課題や未来を考えるための資料として古写真に着目し、そのデジタルアーカイブと活用について実践を紹介した。その視点は、実世界である地域社会を中心に、どのようにデジタルアーカイブを実世界とつないでいくかにある。そのヒントは「活動」の共有にあり、「活動」の結果、アーカイブが整理されたり、新しいアーカイブが創出される流れが重要と考える。(まちづくり)